

# 区が大田に東京・タイ 「テクノパーク」を開設

## 進出第一号は南武 スリヤ副首相らが見学

県に開設した大田テクノパーク(OTP)の開所式を六月二十六日午前十時半から盛大に開催し、進出第一号となった油圧

シリンダーメーカー・南武(野村和史社長)の現地法人「ナンプ・シル・タイランド」の工場を視察した。

セレモニー及び工場見学にはタイ副首相のスリヤ工業大臣が来賓として出席、タイ経済界の大物として広く知られ同テクノパークが入居したアマ

タナコン工業団地を運営するアマタコーポレーションのヴィクトロム・クロマデイト会長、小林秀明駐タイ国大使、主催者側の西野善雄大田区長ら総勢百名で門出を祝った。

式典では、スリヤ副首相が「大田区は世界でも

有名な工業地帯。今回の日タイ連携事業はアマタのみならずタイ政府にとっても大きな期待を持っている」と挨拶。

次いでヴィクトロム会長は「アマタコーポレーションと大田区が共同で開発した中小企業向け工業団地をオープンしたことで、タイと日本の経済交流が促進されることを希望する」と述べた。

小林大使は「タイでは桐野産業の集積が求められている。日タイ経済連携が進む中で技術力のある中小企業の進出はタイムリだ」と祝辞を述べ、西野区長は「大田区には六十七万人の人口、五千

を超す企業があり、非常に高いポテンシャルがある。(そうした企業が集まることで)基盤技術を提供し、より中身の濃いも

のづくりが可能になると心した。

式典・工場見学の後、一行はアマタ工業団地にあるアマタ・スプリング・カントリークラブに移動し、昼食をとりながら今回の大田テクノパークの記者発表会を行った。ここでヴィクトロム氏は「日本人は六百年前からタイに来て以来、今も良好な関係を構築を続けてい

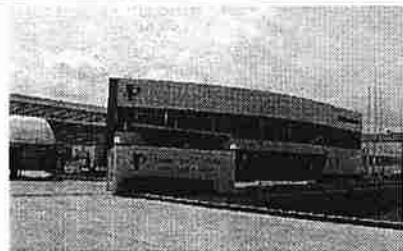


スリヤ副首相



ヴィクトロム会長

る。アマタ工業団地には六百社、その六〇％が日系企業だが、成功した企業は日本の本社より発展していて喜ばしい。アマタ工業団地で産出されるのはメイド・イン・タイではなくメイド・イン・アマタとして評価されるように、高い品質と高い価格競争力を実現する産地としたい」とスピーチした。



大田テクノパークの管理棟



ナンプ・シルの工場外観と内部の作業場



野村社長が副首相らに説明

町工場の町、東京・大田区は中小企業の海外進出を支援するためタイのバンコク郊外チョンプリ

## グローバル化なしに発展難しい

記者会見場で大田区産業振興公社専務理事の山田伸顕氏は「中小企業もグローバル化しなければならぬ時代。今までは

大田区にとどまっているだけでも事業は継続できたが、これからはグローバル化しなければ発展が難しい」と述べ、海外展開の際には日本企業が数多く進出し、将来的にも発展が望めるタイへの進出を勧める。

## タイでの事業支援拠点として有用

記者会見場でナンブ・シル・タイランドの野村伯英氏は「四年五カ月前にタイに進出し、事業拡大に伴い手狭まになり、新拠点へ移転した。大田テクノパークプロジェクトの最大の狙いは技術と

意欲のある中小企業のタイでの事業支援だと思ふ」とした上で、「進出を希望しながら進出を断念されている企業は進出の最初の段階のノウハウがないのが理由。現地法人設立初期の不安な中で一定のサポートが提供されるのは有益だ」と評価した。

# 大子会社が南武のタイ子会社が大田テクノパークに移転

### 事業拡大で3倍規模に

全館冷房設備が稼働しており、常夏のタイでも快適な作業環境を確保している。

一階の作業スペースにはNC旋盤やボール盤など専用機、汎用機合わせて七、八台を設置しているが、さらにマシニングセンター二台を追加増設する。油圧シリンダーのパーツを計画生産し、日本にも輸出している。従業員は現地四十一名、日本からの営業担当と生産管理者二名の計四十三名。

油圧シリンダーメーカーの南武（東京・大田区）は、タイのチョンブリ県の製造子会社「ナンブ・シル・タイランド」の事業拡大によりアマタナコン工業団地に開設の大田テクノパークに移転した。同パークの第一棟八区画のうち三区画を占有、一部二階建てとした。スペースは前工場の三倍の規模。

一階は製造工場と生産管理室、食堂、二階を事務・経理室に充てている。

油圧シリンダーはダイカストやプラスチックで中子形成に不可欠なツールで、自動車用のエンジンブロック、自動変速機、サスペンションメンバー、インスツルメントパネルなどに多用されている。南武のシリンダーは耐熱、長寿命でダイカスト業界から高い評価を得ている。

# タイ財界の大立者ヴィクロム氏 私邸に日本人一行招き懇談

タイ財界の大立者ヴィクロム氏は二十六日夕、大田テクノパーク開所式に参加した日本からの一行十数名をバンコク市内にあるアマタコーポレーション本社を迎賓館に招いて懇談した。

ヴィクロム氏は華僑三世にあたり、財界、政界

と太いパイプを有し、著作はベストセラーを続けている。夕食を交えながら、自分が中国の政治指導者層に多くみられる

台湾留学、ベストセラーとなつてゐる著作物の紹介、政治に対する考え方など幅広く私見を披露した。



ゲストハウスの玄関にあつた石仏

同氏が経営するアマタコーポレーションはタイの証券取引場の上場する大企業。「タイだけでなく東南アジアで一番

の存在になりたい」とエネルギッシュに話す。

同氏は昨秋、非公式に来日、東京・大田区の油庄シリンドアメーカー・南武を訪問し、自動車をはじめとする製造業をサポートしている裾野産業の有益性を確信したという。今回、大田区との共同開発という形をとつてまで、日本の中小企業誘

致を促進したいとするのは、工業製品の品質を高め競争力のある製品生産には南武に代表されるようなユニークな技術を持つ中小企業を集合し、厚みのある工業インフラを構築したい考えからとも言える。「メイド・イン・アマタを通用するブランドにしたい」というのも願ける。